

# カンムリウミスズメ et cetera



日本野鳥の会  
カンムリウミスズメ保護事業  
2016年度 活動報告書

## マリンIBA白書を発行しました!

カンムリウミスズメをはじめとする海鳥の多くは、海洋の食物連鎖の上位に位置しています。そこで、海鳥を指標として海洋の生物多様性や環境を保全するために重要な海域をマリンIBA (Marine Important Bird and Biodiversity Areas : 海鳥の重要生息地)として選定しています。マリンIBAの選定は、バードライフと各国のパートナー団体が2004年に開始し、その結果は多くの国や地域で海洋保全政策に取り込まれています。日本では当会とバードライフが共同で選定を進め、この度マリンIBA白書を発行しました。本書には、日本のマリンIBAサイトや各サイトの現状、指標となった海鳥の生態、海鳥が直面している脅威などがまとめられています。

\*下記からPDF版(日本語版、English ver.)がダウンロードできます

<http://www.wbsj.org/activity/conservation/habitat-conservation/miba/miba-what-is/>



# Annual Report 2016



## 2016年度の主な活動

- 洋上調査 地内島：4/26、5/10、17 恩馳島：4/27、5/11(中止)、18(中止)
- 上陸調査 地内島：5/9 祇苗島：5/10
- 人工島の設置 神子元島：4/15、5/2、6/9、1/7、2/22
- 普及活動 三宅中学校学習会・観察会：4/16、5/22  
「カンムリウミスズメシンポジウム2017 in かどがわ」での講演：3/18-20

## ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の活動は皆さまからの会費やご寄付によって支えられています。気軽にご支援いただけるよう、さまざまな形でのご寄付・ご支援の方法をご案内させていただいています。野鳥が暮らす豊かな自然を守るための活動に、ご協力をよろしくお願いいたします。

### ◆お申し込み・お問い合わせは会員室へ

TEL : 03-5436-2630 (10:00~17:00 土日祝定休)

FAX : 03-5436-2636 メール : [kifu@wbsj.org](mailto:kifu@wbsj.org)

<https://www.wbsj.org/join/>



プレゼント付き寄付  
バードメイトの  
ピンバッジ

## 最新情報はこちら

カンムリウミスズメの特徴や生態、保護活動の最新情報や調査結果の速報などをホームページやSNSでお知らせしています。日本野鳥の会ホームページ(当会の活動・自然保護・絶滅危惧種の保護・カンムリウミスズメ <https://www.wbsj.org/nature/kisyou/sw/>)からブログやTwitter、YouTube、Facebookページにリンクをしています。

## カンムリウミスズメ保護事業 2016年度活動報告書

公益財団法人日本野鳥の会  
保全プロジェクト推進室

東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

TEL 03-5436-2634 FAX 03-5436-2635

2017年9月発行

日本野鳥の会は、1995年度から三宅島周辺に生息するカンムリウミスズメの調査を三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館を拠点に行ってきました。創立75周年を迎えた2009年度からは、伊豆諸島に活動範囲を広げ、残された繁殖地の保護、営巣地の増加や営巣環境の改善を目指して事業を進めています。

## トピックス

世界初! カンムリウミスズメが人工島を使って繁殖に成功

2016年度、当事業はF氏カンムリ基金で実施いたしました。

# カンムリウミスズメってどんな鳥？

## カンムリウミスズメの暮らし

- ◇カンムリウミスズメは1年のほとんどを海で過ごします。
- ◇繁殖期には島に上陸し、崖などの岩の隙間や地面のくぼみなどで卵を産みます。1ヶ月ほど卵を抱くと、可愛いヒナがかえります。ヒナは孵化すると1~2日で親と一緒に海へと旅立っていきます。最初に親からエサをもらうのは海に出てからです。
- ◇海に出てからは繁殖地を離れて日本列島の周辺を移動しながら過ごします。
- ☆地図のポイントは皆さまからの目撃情報です。いつどこにいるかが大まかにわかりました。

1月  
繁殖地の近くに戻ってきます

2月

3月  
島で巣を構え卵を産みます

繁殖地の島では、卵やヒナ、時には成鳥も、カラスやネズミ、ヘビなどに捕食される危険があります。



11月

## カンムリウミスズメ

チドリ目ウミスズメ科  
体長:約24cm  
体重:約160g  
分布:日本の近海にだけ分布  
一腹卵数:2個(重さ約30g)  
推定総個体数:5,000から10,000羽  
保護指定:絶滅危惧II類(VU)(環境省)  
Vulnerable(VU)(IUCN)  
国の天然記念物



## 個体数減少の原因

- ◇繁殖地に釣り人などが放置したゴミや撒き餌にカラス類が誘引されたり、人の移動と共にネズミ類が入り込んだりして捕食者になっています。卵やヒナだけでなく成鳥も襲われることがあります。
- ◇釣りや海洋レジャーの拡大により繁殖地に人が立ち入るようになり、卵やヒナが無造作に踏まれたり、攪乱により親鳥が巣を放棄したりといった影響が懸念されています。
- ◇刺し網漁による混獲や油汚染による死亡例が報告されています。

元々島にいなかった捕食者を誘致しないようにエサとなるゴミや撒き餌などを持ち帰ることが大切です。



4月  
卵を温めます  
1ヶ月ほどでヒナがかえります

10月



繁殖地である可能性が高い新島村の地内島

これから伊豆諸島で暮らす私たちの移動経路や生息域を詳しく知るためにジオロケーターという機械を使った調査が行われるよ。

ジオロケーターっていうのは、センサーで計測した照度や日時などを記録する装置だよ。照度の変化から日の出日の入時間を推定して、緯度経度を算出することで、僕らがいつどこにいたかが分かるんだ！

5月  
孵化後、1~2日で海へと巣立っていきます

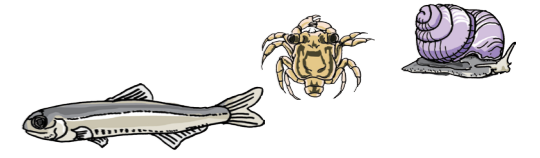
9月  
目撃情報が少なくなります

8月  
多くが北に向かいますが、瀬戸内海で過ごす個体もいます

7月  
次第に北上していきます

6月  
海で親からエサをもらいながら島から離れていきます

カンムリウミスズメは海に潜ってエサを捕まえます。水中でまるで飛ぶように翼を羽ばたかせて、ペンギンのように上手に泳ぎます。小魚や軟体動物、カニの幼生などの小動物やプランクトンを食べていたという報告があります。





センサーカメラで撮影されたカンムリウミスズメ

## 世界初！ カンムリウミスズメの人工巣における繁殖成功

個体数減少の一因と考えられている営巣地の減少や環境悪化を解消するため、2010年から取り組み始めた人工巣の設置。2016年、ついに3つがいのカンムリウミスズメがU字溝を使った人工巣を利用して繁殖しました。残された卵殻から合わせて5羽のヒナが巣立ったとみられます。これまでも各地で人工巣の設置が取り組まれてきましたが成功事例はなく、これが世界初の快挙となりました。今後、カンムリウミスズメの保護に大きな役割を果たしていくと期待されています。



カンムリウミスズメが使った人工巣の1つ  
現地の石でU字溝をカモフラージュ



2010年、最初の人工巣を設置



人工巣の入口に向かうカンムリウミスズメ



岩の隙間を覗くハシブトガラス



人工巣の中に残された孵化後の卵殻

### 世界初の人工巣での繁殖までの歩み

#### 当会初の人工巣を設置

2010年、カンムリウミスズメの営巣数を増やすために、神子元島(下田市)にU字溝を使った人工巣を設置しました。しかし、設置後2年間人工巣は使われませんでした。改善が必要だと感じたものの、当時、人工巣の成功事例はなく、また、当会には天然の巣が作られる環境や形状についての記録が少なく、改善は非常に難しい課題でした。

#### 人工巣の改善に向けて

2013年4月、カンムリウミスズメがどのような条件で営巣するかを知るため、複数の天然の巣がある神津島の祇苗島と新島の根浮岬を訪れました。2つの島は環境が異なることから、比較することでどういった環境が好まれるかを一般化して捉えることができると考えました。現地では、あらゆる方向から卵が見えてしまう巣があったり、気をつけて見ないと分からないような狭い岩の隙間で抱卵していたり、波打ち際に近い場所を使ったり、そうでなかったりとさまざまなタイプが見られ、好む場所や形状は特にならないようにも思いました。しかし、発見した巣の入口の幅、高さや向き、巣の奥行きを計測したり、床の材質を記録したりしたところ、現在のU字溝では広すぎ、地面の状況が好みに合っていないようだとすることに気づきました。

#### 成功に向けた試行錯誤

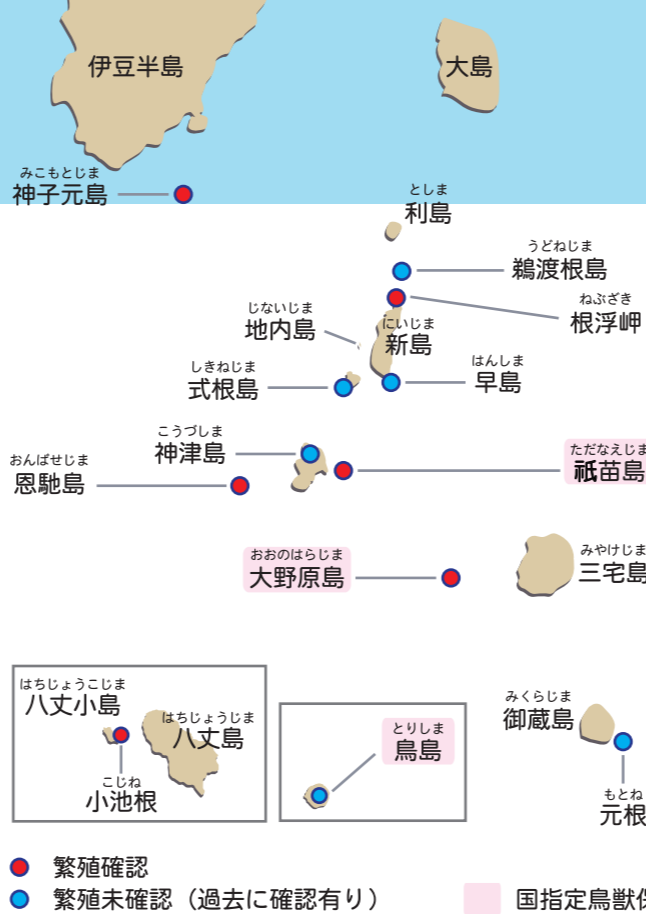
2014年には、U字溝の入口に石を立てかけて狭くし、中に生えた植物を除去するといった変更を行いました。この年も利用されませんでした。そこで、2015年1月、今度は入口だけでなく巣の内部も狭くするため、U字溝をタガネとハンマーで割り、さらに床が岩になるように設置場所も工夫しました。また、営巣場所を探しているカンムリウミスズメが人工巣周辺を歩いているのに選ばれないのか、それとも歩いてもいないから選ばれないのかを明らかにするため、人工巣周辺にモーションセンサーカメラを設置しました。

#### センサーカメラが写し出したもの

カメラには、人工巣の近くを通るカンムリウミスズメの姿が写っており、設置場所には問題がないことがわかりました。しかし、困ったことに人工巣入口や岩の割れ目を執拗に覗き込むハシブトガラスの姿も写っていました。その内の1枚にはハシブトガラスがカンムリウミスズメをくわえている様子が写っていました。また、この年見つけた奥行きが浅い天然の巣には、カラスに襲われたのが孵化した場合とは違う割れ方をした卵と孵化しなかった卵が残されていました。カンムリウミスズメの天敵は猛禽類やカラス類、ネズミ類などですが、この島ではハシブトガラスの影響が大きいと考えられました。

#### ついに利用 世界初の人工巣での繁殖

これらの情報から、2016年、カラスの嘴が届かないようにU字溝を使った人工巣の奥行きを深くし、入口にパイプを付ける対策を講じ、さらにケースを使った巣箱を作りました。するとついにカンムリウミスズメがU字溝の人工巣を使って繁殖したのです。4月にはセンサーカメラで人工巣へ入っていく姿が撮影され、5月には巣内からヒナの声が聞こえました。繁殖期後の調査では人工巣内に孵化後の卵殻が残され、前述の通り3つがいが5羽が巣立ったことがわかりました。今後は、今回の事例を基に人工巣の定型化に取り組んでいきます。

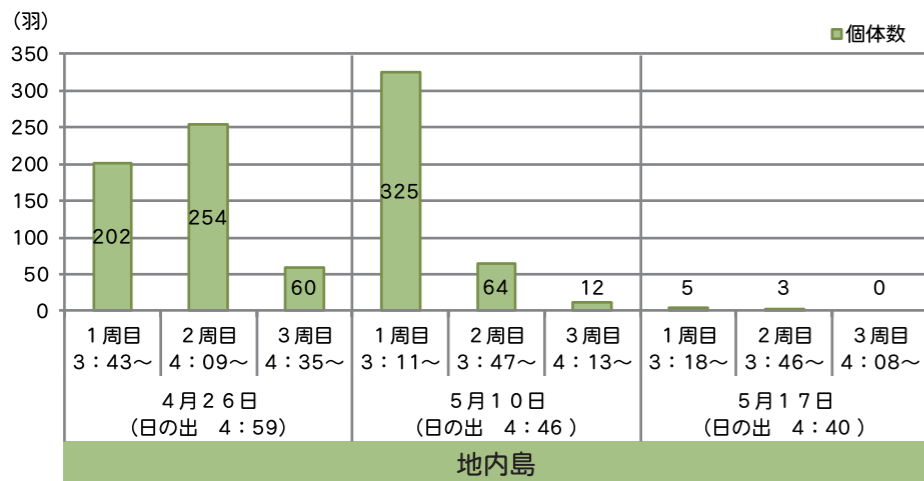
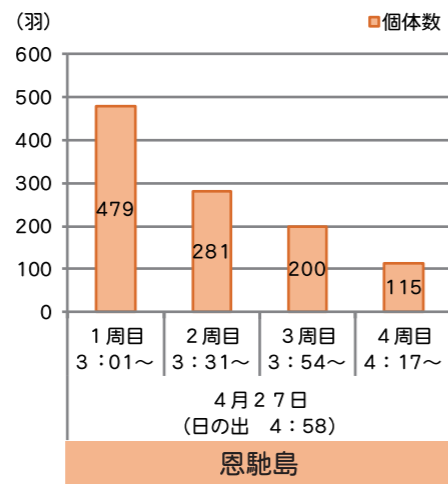


## 繁殖地周辺の洋上個体数調査

早朝に島の周囲を周回して洋上にいるカンムリウミスズメを数える個体数調査を新島村の地内島と神津島村の恩馳島で行いました。日の出時間の1時間くらい前までに抱卵を交代したカンムリウミスズメが海に戻ると考えられるため、2014年から日の出時間に合わせて調査を行っています。

2016年、地内島の周辺ではこれまでで最も多い325羽が確認されました。恩馳島は5月の調査が悪天候のため中止となり、4月に1回しか実施できませんでした。

三宅村の大野原島の調査は、村営の三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館に常駐する当会レンジャーが、4月12日の午後12:14から実施し、76羽を確認しました。



## 西日本の繁殖地

繁殖地である島根県星神島と宮崎県枇榔島の調査に参加しました。両島とも岩でできた島という点では伊豆諸島と似ていましたが、星神島では岩の割れ目などではなく生い茂った草の根もとにできたくぼみで営巣していました。最大の繁殖地である枇榔島では、森の中の岩場の隙間や他の鳥たちが地面に掘った穴を使っており、海から島に戻ってくる時にはケガをしないかと心配になるくらいの勢いで木に突っ込むように着地していました。島内にはカラス類が数つがい営巣しており、カラスに捕食されたとみられる死骸が数体見つかりました。



## 三宅中学校とカムリウミスズメ勉強会

2013年からアカコッコ館で始めた三宅中学校3年生とのカムリウミスズメの勉強会も4回目になりました。郷土の海とそこに暮らす希少な海鳥たちを取り巻く状況を体系的に学べるように、カムリウミスズメをはじめとした海鳥と海洋環境問題について室内で学んだあと、実際に海に出てどのような環境で鳥たちが暮らしているかを観察します。2016年は4月16日に学習会を、5月22日に観察会を行いました。天候の関係で観察会の時期が遅くなりカムリウミスズメは見つけれられませんでした。船の近くに浮かぶハシボソミズナギドリや海上を乱舞するオオミズナギドリ、一回り大きなカツオドリが見られ、参加した生徒3名は右へ左へと飛ぶ鳥たちを双眼鏡で真剣に観察していました。カムリウミスズメの繁殖地の大野原島では、島のすぐ近くで見学しながらレンジャーの説明を聞き、保護の取り組みなどについて学びました。

船先で鳥の姿を探す  
生徒とレンジャー



繁殖地の大野原島を  
眼前に歴史を学ぶ



## 出前講座のご案内

当会では、カムリウミスズメやその生息地である海洋環境について知っていただくために、各地に出向いて学習会や観察会、展示、講演会などを行っています。詳しくは保全プロジェクト推進室にお問い合わせください。

## カムリウミスズメを観察する時に守ってほしいこと(推奨ルール)

カムリウミスズメは絶滅危惧種に指定されています。未来へ命を繋げるために、繁殖や採餌など自然な行動を妨害しないこと、またその生息海域を保護することにご協力ください。当会では、カムリウミスズメを守りながら観察するためのルールとして、1) 繁殖期(2~5月)は、営巣地への立ち入りは避け、繁殖地の島にむやみに上陸しない。2) 繁殖地の島に上陸する際は、捕食者となるネズミ類、ネコなどが一緒に入ってしまうように注意する。3) 捕食者となるカラス類を誘引してしまうため、ゴミ(食べ物など)を島に放置しない。また、誤食やケガなどを防ぐため、釣り糸、釣り針などを見つけたら回収する。4) 洋上で観察する際には、適正な距離をとり、滞在時間、航行速度を限定するなどストレスを与えないようにする。などを掲げています。



詳細は当会ホームページをご覧ください

<カムリウミスズメ保護の取り組みー伊豆諸島カムリウミスズメウォッチング推奨ルール>

[https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/sw\\_hogo/sw\\_rule/](https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/sw_hogo/sw_rule/)

※問い合わせ先 三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館 (電話 04994-6-0410)